横浜バスティン研究会　２０１４年１１月２０日（木）
「アナリーゼに繋がるために」
第３回（全３回）ゲスト講座　塚原利理先生

今月の研究会は先月にひき続き、塚原利理先生にお越し頂き、「アナリーゼに繋がる楽典の指導法」　１回目の「音楽記号の理解への入り口」、２回目の「セオリーは音楽の文法」に続き、今月３回目の最終回は「アナリーゼに繋がるために」をテーマに、バスティンベーシックスセオリー３、ピアノ３からお話し頂きました。

１回目、２回目のお話の中でも塚原先生が繰り返して何度も言われていた定着の大切さ。では、定着させるためにはどのようなピアノ、セオリーの指導をしたらよいのか？セオリー３になると小学生高学年、中学生レベルの難しさになる内容になります。まずは無理なくわからせる！言葉で理解させる！ための塚原先生の誘導法は想像力に富んでいます！

●セオリー３の中から
☆調の相互関係を親子、親戚に例えてみたら？！
☆音程の長短、完全は血液型？！
☆ 音程を無理なく簡単に読む塚原先生が生み出した公式とは？！

●ピアノ３の中から
☆音の動き、方向を読むことで効果的な練習法も見えてくる！
☆初級までにつけたい５つの基礎力
☆和音の指使いの定着の大切さ、音階、半音階のダイナミクスをつける為の運指法、
☆速さとレガートの為の運指法

（今回使用したテキスト）

（文：横浜バステイン研究会　菊地昌子）